

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

〈日本語解説〉「レユニオンの客家をめぐる調査紀行」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河合, 洋尚 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00009530

〈日本語解説〉「レユニオンの客家をめぐる調査紀行」

レユニオンは、モーリシャス、セーシェル、南アフリカと並び、現地の華人社会における客家の人口比率が高い国である。しかし、モーリシャスと比べ、他の3つの国の客家については概況すらほとんど知られていない。本稿は、香港客家文化研究会の会長・林文映と研究員・李剣諸が、2018年夏にレユニオンとモーリシャスを訪れた際に記した調査紀行である。林文映の本職は作家であるため、他の論文・報告書とは異なり、本稿は「学術的なスタイル」をとっていない。しかし、彼女らは現地で客家にインタビューをおこなっており、主に現地での聞き取りを通してレユニオンの客家についての概況を調べている。我々は、こうした紀行文的な記述にも資料的な価値があると判断し、またそうした記述を「学術的ではない」と一蹴してはならないと考え、「調査ノート」の枠で掲載することにした。本稿は、モーリシャスとの比較のうえで、レユニオンの歴史、分布、教育、信仰について次のように述べている。

- 歴史：レユニオンの初期の移民は、中国から直接移住したのではない。1844年にマレーシアから華人契約労働者が移住しはじめたのが、レユニオン華人史の幕開けである。1875年からは中国から直接移住するようになった。その大半は、広東省・梅県が移住した客家であった。
- エスニック構成と分布：レユニオンでは福建人が最も早く、その次に南順人（南海、順徳の広府人）が移入してきたが、やがては客家がマジョリティを占めることとなった。現在、客家を主体とする華人は、特に首都サン＝ドニ、およびサン＝ポールに集中しているが、全島に分布している。
- 教育：レユニオンの中華学校は、モーリシャスより遅く、1927年に創設されている。その後、多い時は12の中華学校があった。当時は、80%の華人の子弟が中華学校で学んでいた。しかし、戦後にフランス籍に加入し、クレオール化が進むと、フランスなど海外に留学するようになった。それに伴い、1981年にレユニオンの中華学校は全て閉鎖した。
- 信仰：レユニオンには、おそらくアフリカ最大ともいえる関帝廟がある。レユニオンの住民の85%はカソリックを信仰しているが、客家のなかには関帝廟で信仰活動をおこなう人々も少なくない。サン＝ドニとサン＝ポールでは2年に1度、大規模な関帝祭が催されており、当日は華人の最も重要な祝祭日となる。

本報告を概観すると、レユニオンの歴史的、社会的、文化的概況は基本的にモーリシャスと類似していることが分かる。レユニオンの客家をめぐる研究はまだ本格的には始まっていないが、本報告は後に調査研究をおこなうための重要な手掛かりの一つとなると考えられる。またレユニオンの華人／客家社会で顕著であると描かれている関帝廟については、レユニオンという文脈を超えた比較研究が今後求められるようになるかもし

れない。本書を概観すると、モーリシャス、タヒチ、ジャマイカ、ペルーなど「南側諸国」の客家（華人）の間では、特に関帝信仰が盛んであることが分かるからである。他方で、本稿を基にして、未だその概況が明らかになっていないセーシェルとの比較研究を進めることも今後期待される。

（河合洋尚）